

2023年豪州日本研究学会研究大会 / 国際繫生語大会で発表

尾上 貴行

9月1日から3日にかけて、2023年豪州日本研究学会研究大会 / 国際繫生語大会 (JSAA-ICNTJ2023: Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia 2023/ International Conference of the Network for Translingual Japanese) が、「ポストコロナの社会を生きる：人とことばの移動、越境、融合 (つなぐ、わたる、のりこえる)」(Living in a post-Covid Society: Mobility of People and Language across Borders for Social Integration) をテーマとして、オーストラリア・シドニーで開催された。

この大会では、日本研究とその関連分野、また繫生語／継承語に関わる研究者・実践者が世界各地から参集し、オーストラリアや日本の国内外における日本研究、世界各国の繫生語／継承語としての日本語教育・学習に関する研究に関して、3日間にわたり主にシドニー大学とニューサウスウェールズ大学を会場として、多様なパネル、分科会、ワークショップなどが開催された。

尾上は、大会2日目の午後に「Japanese Religion and Japanese Language Education in Australia: A Case of Tenrikyo Oceania Centre's Japanese Language Class in Brisbane」(オーストラリアの日系宗教と日本語教育—ブリスベンの天理教オセアニア出張所日本語教室を事例として—) という演題で発表した。ブリスベンにある天理教オセアニア出張所では、1998年から現在に至るまで、布教活動を推進する目的で、地域社会への社会・文化活動の一つとして日本語教室を行っている。本発表ではこの日本語教室を事例として取り上げ、日系宗教の文化活動、特に日本語教育が、オーストラリア人への布教活動や宗教団体としての現地社会への定着においてどのような意義を持つのかについて考察した。

日本宗教学会第82回学術大会で発表

堀内 みどり

9月8日から10日にかけて標記学術大会が東京外国語大学府中キャンパスを会場に開催された。コロナ禍後初めての対面のみでの大会だった。8日には開会式の後、公開シンポジウムが「教育とイスラーム—公教育から見た宗教文化の多様性—」をテーマとして開催された。

9日及び10日には、11の部会で個人研究とパネルの発表が行われた。天理大学関係者の発表は以下の通り。

澤井義次：シャンカラ派信仰の意味論的理解 (パネル「宗教学における知の枠組みの再検討」代表)

澤井真：聖者が織り成す世界—霊的権威としてのイスラ

ム神秘主義 (パネル「イスラームの聖者論と権威」代表)

金 博城：天理外国語学校の設立と朝鮮布教

澤井治郎：天理教における教会のはじまり

岡田正彦：明治改暦と近代仏教 (パネル「明治改暦 150年に近代日本を問う」)

深谷耕治：天理教の里親活動における「おつとめ」の位置づけ

堀内みどり：「親心」とは何か—教理と信仰実践についての一考察—

また、他に天理教関連の発表が三つあった。

道蔭汐里 (東京工業大)：新宗教教団が実施する「教祖祭」の意義と役割

青木 繁 (東京工業大)：天理教の社会貢献活動—地方教会に焦点をあてて—

坪井俊樹 (東京大)：若者と宗教—コロナ影響下の若者の宗教活動・新宗教公式メディアの語りから—

第360回研究報告会「天理教教祖による宗教革新と教団形成」(9月11日)

岡尾 将秀

博士論文を出版のために書き直すという目的で、そのための構想を発表した。博論では既成宗教と異なる宗教が形成されることを「宗教革新」と捉え、その過程を「民俗宗教」、「民衆宗教」、「新宗教」、「伝統宗教」という四つのカテゴリーで区分した。だがこれらのカテゴリーは、日本の諸宗教を分類するために各学問領域で慣習として使用され、天理教は社会思想史では民衆宗教に、宗教学や社会学では新宗教に分類されてきた。したがってこれらのカテゴリーを、一宗教の形成過程を区分するカテゴリーとして使用するという提案は受け入れられ難い。今回は宗教の教義、儀礼よりも教団の形成を捉えるために、「宗教家族」、「宗教ネットワーク」、「宗教組織」、「宗教制度」というカテゴリーを設定し直した。

これらのカテゴリーによって、教祖在世期の教団形成を区分すると、中山家が地主農家として所有していた家屋を立教以降、売却していく過程も、宗教家族の段階として考察できることが明らかとなる。また教祖が信者に教示した儀礼実践を、教祖の家族が他の家族や地域社会の有力者に承認してもらうために、既成宗教に所属することは、いまだ宗教制度の段階と見なせないことが明らかになる。しかしそのことが、教祖による当初の教えの既成宗教に代わる展開を促し、宗教ネットワークから宗教組織の段階へと移行させたことも明らかになる。

グローバル天理

第24巻 第11号 (通巻287号)

2023年(令和5年)11月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan